

第7回 市議會 定期會議

主 要 業 務 報 告

上 水 道 事 業 本 部

總 括

낙동강「폐놀」汚染事態 以後 水質에 對하여 國民들의 關心이 높아가고있는 狀況에서 보다 맑고 豊富한 用水供給을 爲하여 推進하여온 成果로는

- 研究職8名등 12名으로 水質檢査所를 新設 水質改善業務를 強化하고
- 盛需期 給水難 解消를 爲하여 宋村淨水場의 施設改良으로 1日50,000 m³를 増産, 수돗물을 豊富하게 供給해 왔습니다
- 主 上水源인 大淸湖의 綠藻現象이 例年에 比해 早期發生 長期間 持續되었음에도 適切한 措置로 異臭味 發生에따른 民願이 없었고
- 69Km에 달하는 老朽管改良으로 맑은물 供給과 漏水防止에 큰 成果를 거두었으며, 아울러 管末에 設置된 泥土弁의 堆積物을 清掃하여 今年에는 녹물,異物質등으로因한 出水 不良民願發生의 事前 豫防으로 水質에 對한 信賴回復에 最善을 다해왔습니다.
- 水質保全 對策을爲하여 學界, 言論界, 社會團體任員등으로 水質監視委員會를 構成 運營하고 있으며
- 또한 週間 水質檢査結果表를 市, 區, 洞民願室에 게첩 弘報함은물론 關聯學界, 言論界, 社會團體등에 送付 水質을 公開하는등 맑은물供給外 수돗물 不信解消를 爲한 弘報에도 盡力해 왔습니다.

主要業務 推進狀況

☐ 水質管理 機能強化

1. 水質検査所 新設

○ 人 力：14 名， 装 備：35 種

2. 水質検査 機能強化

○ 5個 浄水場 専門人力 補強 ——— 13 名（化工職）

3. 水質検査 対象擴大

○ 水質検査 規定上 1日 17個項目 1回晝 → 4時間 間隔으로 1日 6回 實施

○ 規定에 없는 週間 水質検査 實施 —— 38個項目

4. 水質監視 委員會 構成 運營

○ 構成人員：15 名(大學教授, 言論人, 社會團體任員) —— 每分期 1回 運營

☐ 上水道施設擴張

1. 生活用水 施設擴張

○ 月坪浄水場 1段階事業推進 - 200,000m³/日（總工程 92%）

○ 宋村浄水場 施設改良 ——— 50,000m³/日 増産（總 459,000m³/日）

2. 工業用水 施設擴張

○ 懷德浄水場 施設擴張

└ 20,000m³/日 生産供給（1.2工團）
└ 70,000m³/日 工事中（3.4工團） - 工程 40%

3. 東部 加壓場 設置

○ 推進狀況 —— 配水池：300m³(펌프모터：4臺) - 500百萬元（工程 95%）

○ 受惠家口：1,443 世帯 7,687名（東區 大洞, 紫陽洞地域）

4. 大德研究團地 用水不足 解消

○ 配水管敷設(φ 500m/m, L=1,724m) —— 供給能力 1 日 10,000m³

☐ 맑은물 供給對策 推進

1. 老朽管 改良

- 對象：敷設年度15年以上 주철관 69km (ϕ 100~300m/m)
- 內容：交替 및 에폭시 塗裝等 實施

2. 配水管內 異物管 除去 - 西部地域

- 內容：洗管作業實施 - 9,870m(300~600m/m)

3. 淨水施設 改良 - 沈澱池外 16件

☐ 大淸湖 水質保全對策 推進

1. 大淸湖 流域 污染源 一齊 調查

- 調查地域：4個道 9個郡 65個邑面 地域
- 調查期間：'91. 4. 8 ~ 4. 13 (3個班 10名 投入)
- 結果措置：污染 抑制對策 推進 協調 依賴

2. 上水道 保護區域 團束強化

- 團束班 編成 - 5個班 54名
- 裝 備 - 行政指導船 1隻
- 團 束 實 績 - 4,288件 (낚시및 行樂行爲等 團束)

3. 上水源 保護의날 行事實施

- 內 容：週末 自體 水源保護活動 實施
- 實 績：24回 —— 延121,330名

□ 經營 合理化 推進

1. 上水道 使用料 引上 (21.5%)

〔 引上前 : m³當 179.51원 (赤字額110.61원) - 生産原價 : 290.12원
引上後 : m³當 218.19원 (赤字額 43.61원) - 生産原價 : 261.90원

2. 有收率 向上事業 推進

- 老朽計量器 交替 - 6,080 栓
 - 多量需用家 計量器 重點 管理
 - ・ 多量需用家 高感度 計量器 交替 —— 300 個
 - 漏水探查活動 強化
 - ・ 漏水探查班 補強 : 2個班 12名 → 4個班 20名
 - 〔 目標 : 5,000千m³/年 (防止效果 1,091 百萬원)
實績 : 4,455千m³/年 (" 972 ") - 89 %
 - 受託 給水工事 定額制 運營 (工事費 公開)
 - ・ 變更--- 距離 實額制(配水管→家庭) → 平均距離 定額制(市-圓 15m 基準)
 - ・ 效果
 - 〔 工事費 算出過程에서의 不信 解消
給水管의 統合工事 積極 施行으로 漏水防止
道路의 重複掘鑿 防止
- ※ 共同住宅 : '90年度 世帶富 平均 120千원 → '91年度 430 千원으로 調整
一般住宅 : 前年과 對等

3. 創案事項 發表會 運營 - 自體 特殊施策으로 推進

- 運營方法 : 每月 1 回 (參與 - 本部傘下 職員)
- 運營實績 : 11回 92件 : 發表 —— 採擇 28 件(30.4%)
- 成果分析 : 豫算節減 - 3件 3,300千원, 制度改善 - 4件, 業務能率向上 - 21件

□ 上水道行政 弘報 強化

1. 淨水 水質成績 公開

- 公開內容：淨水의 週間 水質試驗 成績 (38個 水質試驗 項目)
- 公開方法
 - ┌ 市・區・洞事務所 民願室에 揭添 弘報：82 個所
 - └ 關聯學界, 言論界, 社會團體에 通報
- 實施回數：44 回 (每週 月曜日)

2. 수돗물 生産過程 弘報

- 對象：一般市民, 社會團體員및 學生등 機能別 招請 弘報
- 場所：宋村 淨水場
- 內容：淨水處理및 供給過程 슬라이드 上映및 現場 見學
- 實績：81 回 - 4,848 名

3. 上水道 信賴提高를 爲한 說問調査 實施

- 調査對象：管内 需用家 1,000世帯 (無作爲) - 應答者 956 名
- 調査項目：11 個 項目
 - ※ 主要項目：滿足度, 衛生狀態, 不信原因, 淨水過程認知, 貯水槽清掃實施
- 調査結果
 - ・ 淨水過程의 見學層이 수돗물 水質에 對한 信賴도가 높은 反面
 - ・ 未 見學層에서의 大淸湖 原水 汚染惡化를 앞세운 不信도가 常存하고 있었음

4. 上水道行政 弘報

- 言論媒體 活用 弘報：4 回 (放送局및 新聞社)
- 大田直轄市報및 班常會報 掲載 弘報：8 回
- 弘報傳單 製作 配布：7 回 (1,400千枚)
- 市民과의 對話 實施：4 回

☐ 需用家에 對한 奉仕行政 強化

1. 出水不良 點檢 모니터制 運營

○ 對象：給水 供給 全地域

○ 모니터 要員 指定：112 名 (高地帶및 出水不良地域 重點)

2. 本部 公務員 分擔洞 指定 給水民願 解決

○ 對象：給水供給地域 行政洞 67 地域

○ 指定：本部 7 級 以上 公務員 43 名 (1 人 2~3 個洞)

3. 給水 生活民願의 迅速한 處理

○ 機動 修理班 運營 -- 5個班 15名 (車輪：5臺)

○ 處理實績 -- 11,686件

┌ 計量器 故障 修理：6,755 件
├ 公道 修繕 處理：4,693 件
└ 漏水 探查및 其他：4,238 件

4. 斷水地域 事前 豫告實施로 住民不便 解消

○ 對 象：配水管 敷設, 修繕, 他工事由 因한 斷水등

○ 方法

- ・ 言論媒體 活用 弘報 -- 大單位 地域 斷水時 放送社및 新聞社活用 弘報
- ・ 案内傳單 製作 配布 -- 斷水 需用家が 적은 地域
- ・ 車輛活用 街頭放送 實施등

○ 斷水時 市民不便 解消

- ・ 給水車 活用 斷水地域 需用家에 對한 給水供給으로 不便 最小化

'92 主要業務 計劃

上水道行政 基本目標

2千年代 100萬톤 맑은물 供給

○ E X P O 對 備 맑 고 깨끗 한 良 質 水 供 給

○ 經 營 管 理 의 改 善

○ 需 用 家 에 對 한 最 善 의 奉 仕

○ 上 水 道 從 事 公 務 員 資 質 向 上

1. 上水道供給指標

年度 指標率	單位	1991	1992	1995	1996	2001
總人口	千名	1,179	1,243	1,435	1,480	1,650
給水人口	"	1,029	1,122	1,341	1,317	1,568
普及率	%	87.3	90.3	93.4	89.0	95.0
施設容量	千m ³ /日	479	679	879	879	1,079
平均所要量	千m ³ /日	381	434	575	633	753
最大所要量	千m ³ /日	476	540	689	791	941
1人1日 平均給水量	ℓ	358	376	429	447	480
1人1日 最大給水量	ℓ	475	513	536	558	600

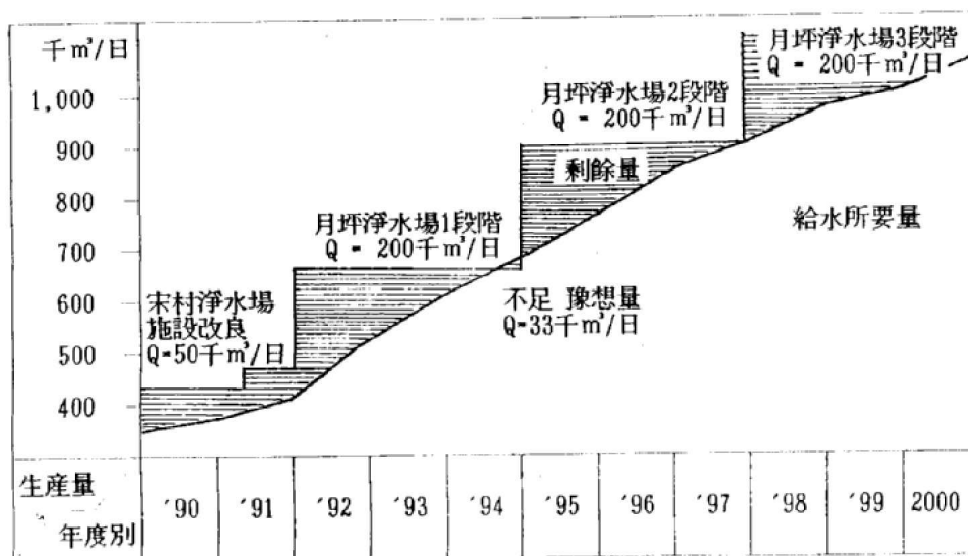
※ 施設容量に 大徳浄水場 20千m³/日 包含

2. 施設擴張

□ 月坪淨水場 2段階 擴張事業 推進

- 施設容量 : 200 千 m^3 /日 (679 千 m^3 /日) → 總 879 千 m^3 /日
- 事業費 : 44,658 百萬圓
- 事業期間 : '92 ~ '94 (3個年間)

○ 擴張事業의 必要性



※ '94 不足豫想量(0.14%)은 1日 最大所要量 으로 自體解決 可能

○ 推進計劃

- ・ 2001年 人口(165萬名) 對備 段階別 施設擴張 → 所要 941 千 m^3 /日
- ・ 1 段階 事業 — 200 千 m^3 /日 ('92年 上半期 給水)
- ・ 2 段階 事業 — '92. 上半期 着工豫定
 - '91. 5. 14 實施設計 用役 完了로 '91. 11. 19 上水道事業 認可
 - '92 推進事業
 - └ 스릿지 處理施設 : 1個所
 - └ 淨水設備 土木工事 : 土工 400 千 m^3
 - 所要 事業費 : 7,126 百萬圓

□ 第3・4工團 工業用水 施設擴張

- 對 象 : 第 3・4工團, 尖端工團
- 施設容量 : 70,000m³/日
- 事業費 : 7,679 百萬圓 (公營開發事業團 負擔)
- 事業期間 : '91. 7 ~ '93. 7 (3個年間) - 1次竣工豫定 : '92. 10月

○ 事業의 必要性 : 圓滑한 工業用水 供給

- ・ 總 ——— 70,000m³/日
 - 第 3 工團 : 43,000m³/日
 - 第 4 工團 : 19,000m³/日
 - 尖端 工團 : 8,000m³/日

○ 事業推進內容

'91 投 資 實 績	'92 以 後 投 資 計 劃
<ul style="list-style-type: none">◇ 事業概要<ul style="list-style-type: none">・ 沈澱設備 : 1 池・ 配 水 池 : 2 池・ 配水管敷設<ul style="list-style-type: none">φ 900m/m - L = 5,300m(既存管活用)φ 700m/m - L = 5,086m・ 造景및 附帶工事 : 1 式◇ 事業費 : 4,905 百萬圓	<ul style="list-style-type: none">◇ 事業概要<ul style="list-style-type: none">・ 送水管 敷設<ul style="list-style-type: none">φ 1,000m/m - L = 2,896m・ 機械및 電氣 設備 : 1 式◇ 事業費 : 2,774 百萬圓

○ 向 後 展 望

- ・ 3.4工團 用水 供給에 支障이 없도록 '92 豫算 確保 措置

□ 大徳研究團地 用水供給 一元化

○ 用水現況

- ・ 總 給水 所要量：1日 60,000m³/日
 - ┌ 現在 給水可能量 (大徳淨水場) 1日 20,000m³/日
 - └ 不足量 (月坪淨水場)：1日 40,000m³/日
- ・ 現在 用水供給 機關
 - ┌ 水資源公社：16個機關 및 2個 住居地
 - └ 大田直轄市： 6個機關 및 3個 住居地

○ 一元化 計劃

- 給水體系 一元化
 - ・ 大田直轄市 ←
 - ┌ 水資源公社
 - └ 大田直轄市
- 施設引受：'92. 1. 1 (水資源公社에서 引受)
- 料金 一元化：'97. 7. 1 豫定
 - ・ 二元화된 料金體系를 大田直轄市로 一元化

○ 事前對策

- 弘報強化로 民願豫防
- 給水區域 擴大 告示：'91年末 까지

○ 期待 效果

- ・ 研究團地 不足用水의 圓滑한 供給 (大田市에서 供給)
- ・ 供給單價의 一元化로 上水道行政 信賴回復

□ 鷄龍新都市 用水供給 計劃

1. 現 況

- 給水區域：鷄龍出張所 管内 (鷄龍臺 包含)
- 供給時間：'97. 12月
- 計劃 給水量
 - 1996까지：25,000m³/日
 - 2001까지：53,000 "
 - 2011까지：102,000 "
- 供給方法：月坪淨水場 系統에서 標高80m 地點까지만 自然流下 供給

2. 協議 推進하고 있는 事項

- 施設 負擔金
 - ・ '91年을 基準으로 1m³當 32萬圓으로 計算 5年 間隔으로 分割納付하되 初期段階인 '92~'96 까지는 用水所要量에 따라 每年 納付要求

(單位：m³/日 - 百萬圓)

年 度 別	計	'92	'93	'94	'95	'96
推計 所要量		6,300	11,300	16,200	20,700	25,000
負 擔 額	8,000	2,016	1,600	1,568	1,440	1,376

- 用水供給 單價：前年度 決算書에 依한 生産原價 徵收
- 配水管 建設
 - (西大田T.G隣近)
 - D = 1,000m/m - L = 6,000m
 - 所要事業費：5,700百萬圓(忠南道에서 設計中)
 - 工事は 大田直轄市에서 執行하고 工事費는 忠南道에서 負擔

3. 忠南道 要求事項

- 施設負擔金은 每年 使用量에 따라 負擔 提議
- 用水供給 協議는 鷄龍市로 昇格時 鷄龍市와 協議토록 提議

□ 2001年 以後의 用水確保 對策

○ 計劃人口 給水推計

年度別	計 劃 人 口	普 及 率	1人1日 給水量	施 設 容 量	備 考
2001年	165 萬名	95 %	480 ℓ	1,079千 m ³ /日	
2006	180	97	510	1,120	
2011	200	98	540	1,320	
2031	300	100	550	2,000	

※ 2001年 以後의 計劃人口는 大田市 長期發展 基本構想 資料('90.12) 參考

○ 大清河의 供給 能力

- 流 域 面 積 : 4,134 km²
- 年平均 流下量 : 3,220 百萬m³
- 總 貯 水 量 : 1,490 百萬m³
- 有 效 貯 水 量 : 790百萬 m³

○ 對 策

- 2001年 以後에는 導水터널의 供給 能力을 超過함으로 1日 100萬m³ 規模의 第2水源 早期 確保計劃 樹立및 推進
- 所 要 用 役 費 ——— 300百萬 원

3. 맑은물 供給對策 推進

- 老朽管 및 淨水施設 改良으로 經營 合理化
- 徹底한 水質管理로 EXPO 對備 맑은물 供給

☐ 水源保護區域 監視體制 強化

- 團束班 編成 運營 : 5個班 54名 — 持續的인 啓導・團束 實施
- 大淸湖 特別 團束 : 行政指導船 1隻 投入 - 4名 乘船

☐ 大淸湖 曝氣施設 設備

- 設置場所 : 大淸湖 取水塔 前面
- 設置施設 : 空氣 揚水筒 15 個 (φ 420m/m) — 2,000百萬원
- 效 果 : 大淸湖 藻類發生 抑制로 良質水 取水 — 淨水費用 節減

☐ 老朽管 改良

- 總 計劃 : 521 Km ('95년까지 年次的 旅行)
- '92 計劃 : 116 Km ('91까지 實績 127km) — 3,960百萬원

☐ 淨水施設 改良

- 老朽施設 改良으로 淨水能力 低下 防止
 - 事業量 : 沈澱池 웨어 改良外 5件 — 765 百萬원

☐ 水質監査 強化

- 檢查裝備 確保 : 1 臺(殘溜 農藥成分 檢出裝備) — 18 百萬원
- 檢查體制 強化 — 4時間 間隔 1日 6回
- 大淸湖 水深別 原水檢查 實施 — 水質改善 努力
- 水質 監視委員會 運營 強化 — 水質監視體制 構築

4. EXPO 關聯事業 推進

☐ EXPO 對備 등 配水管 敷設工事推進

(單位：百萬圓)

事業名	事業概要	事業費	備考
計	5件 - 15,700 m	3,520	
○ EXPO 補助行事場 循環	・ φ - 300m/m ・ L - 3,200m	448	
○ 儒城地區～한말大路間	・ φ - 600m/m ・ L - 3,600m	720	
○ 大德大橋～湖南高速道	・ φ - 900m/m ・ L - 2,600m	1,300	
○ 竹洞橋～忠南大間	・ φ - 600m/m ・ L - 3,500m	700	
○ 炭洞 ～ 620團地間	・ φ - 300 ・ L - 2,800m	352	

☐ EXPO對備 造景事業 推進

○ 對象地域：取・淨水場 및 配水地內 空閑地

○ 事業時期：'92年 春季

○ 造景計劃

┌	향나무외 12 種	-----	1,505 本
	부용(多年花草)	-----	300 本
	잔디조성	-----	3,960 m ²

○ 所要豫算 ----- 66 百萬圓

5. 企業經營의 發展

□ 上水道 従事員 技術訓練院 設置運營

- 새로운 上水道行政 需要 對處를 爲한 專門知識 函養
- 機能別 專門教育・技術 習得으로 上水道行政 發展寄與

○ 方 針

- ・ 上水道 全従事員의 精銳化및 專門化
- ・ 全職員을 對象으로 上水道 業務 機能別 持續的인 教育實施
- ・ 對象을 小數人으로 하여 職務教育 및 技術習得
- ・ 講師는 自體에서 選任實施하되 特殊分野는 外來講師 招聘

○ 推進計劃

- ・ 教育期間：1 週日 (個人別 年 2回 以上)
- ・ 教育對象：上水道從事 全 公務員 —— 400 名
- ・ 場 所：月坪淨水場
- ・ 講 師：本部 4級以上 公務員이 擔當
- ・ 方 法
 - 業務 機能別 所管 部長級이 講師가 되어, 上水道行政의 管理分野, 計量器, 漏水探查, 電氣, 化工分野등으로 區分實施
 - 計量器, 變壓器등의 解體 組立등 技術訓練과 現場實習 併行實施(分任討議形式)
- ・ 對象者選定：業務 職種別 10名 1組로 實質的인 技能教育・訓練

○ 期待效果

- ・ 初任者에 關한 上水道業務 研鑽・訓練 —— 漏水없는 經營管理
- ・ 業務 機能別 組織의 一體感 造成
- ・ 上水道行政 従事員의 專門化 및 經營 合理化

□ 上水道 機構 補強

○ 必要性

- '92上半期 月坪淨水場 施設 竣工時 1일 200,000m³의 施設容量 増加
- 給水人口의 増加에 따른 上水道行政需要에 迅速히 對處
- 合理的인 公企業 經營을 爲하여 上水道 組織・人力의 整備必要

○ 機構 増設

- 現 水道施設管理所(宋村淨水場) 名稱 改編 → 宋村 淨水事業所
- 1 施設管理所 1 淨水事業所(月坪) 新設
- 儒城・大徳 事業所 係 増設
- 加壓場 人力補強：日傭 → 技能職 代替

※ 地域事業所 係名稱 變更

- ┌ 水道 1 係 → 庶務 係
- ┌ 水道 2 係 → 給水 係
- ┌ 工務 偏 → 工務 係

○ 増員人力(純増)：45 名

※ 本部 要請案 — 108 名

※ 市 → 內務部 上申案 — 78 名

□ 有收率 提高施策 推進

○ 有收率 提高 目標

(單位：%)

年度別 區分	'89	'90	'91	'92	'93	'94	'95
有收率	63.35	63.85	64.0	64.5	65.0	65.5	66.0
無收率	36.65	36.20	36.0	35.5	35.0	34.5	34.0
漏水率	21.0	21.0	20.0	19.0	18.0	17.0	16.0

○ 方 針

- ・ 漏水防止 事業의 積極 推進
- ・ 老朽 計量器 不感水量 最大 抑制
- ・ 老朽 施設物 適期 改良으로 無收要因 事前除法
- ・ 給・配水管 損壞로 인한 放流水 徴收 徹底

○ 推 進 計 劃

- ・ 給水管 統合工事 積極推進 (1골목 1配水管 敷設 原則)
- ・ 漏水探查活動 強化：2,000千m³/年 防止 (防止效果：524百萬원)
- ・ 區域計量 事業推進：總77區域中 10區域 ('91년까지 完了:27, '95년까지:40)
- ・ 老朽 計量器 交替：24,220 個 (總 90,396 栓의 26.8%) — 完璧한 計量
- ・ 多量 需用家 高感度 計量器 交替：601 栓(月 500m³以上 使用 需用家)
- ・ 老朽 配水管 改良：116 Km
- ・ 低地帶 水壓 調節：3 Kg/cm² 以內(高地帶 水壓 增大로 漏水量 減少)
- ・ 給・配水管 損壞로 인한 放流水 徴收 徹底
- ・ 月別 給水供給量對 徴收額 分析

○ 期 待 效 果

- ・ 不斷한 努力으로 赤字要因 最小化

□ 上水道行政 서비스 向上 및 弘報 強化

○ 水質 成績 公開

- ・ 公開内容：淨水의 週間 試驗成績 公開(38個 項目)
- ・ 公開方法：市・區・洞民願室게침, 學界, 言論界, 社會團體등에 通報

○ 수돗물 生産過程 見學

- ・ 對象：市民 (社會團體, 學生, 市民등 機能別)
- ・ 内容：淨水過程 公開 — 수돗물의 不信回復, 節水意識 鼓吹

○ 迅速한 給水民願 處理體制 構築

- 出水不良 點檢 모니터制 運營 — 112名
- 上水道 公務員 分擔洞 指定 給水民願 解決 — 43名 (本部 7級以上 公務員 43名)
- 主要 道路 配水管 管理責任者 指定運營 — 50個 路線 77 名
- 給水狀況室 運營 — 6個班 12 名
 - ┌ 機動 巡察 修理班 運營：5 個班 15 名
 - └ 給水代行業體 指定運營：26個 業體

○ 上水道行政 弘報

- 上水道 소식紙 發行 — 月 1 回
- 매스컴 積極活用 弘報 — 新聞 및 放送社
- 大田直轄市報 活用 弘報 — 每月
- 弘報傳單 製作 配布 — 水質檢査結果表등 分期1回 全需用家예 配布

6. 財政分析

☐ 財政需要 ————— 53,570 百萬圓

○ 事業費用 ----- 26,266 "

○ 負債償還 ----- 6,229 "

○ 投資事業費 ----- 21,075 "

○ 主要投資事業

- 水管供給對策推進 : 7,147 百萬圓
- 月坪淨水場擴張事業 : 11,749 "
- 其他小規模事業 : 2,179 "

☐ 歲入展望

總 : 39,570 百萬圓

○ 給水收入 : 20,361

○ 施設分擔金 : 3,842

○ 受託工事收入 : 9,125

○ 其他事業收入 : 1,162

○ 移越金 : 5,080

※ 不足財源 ————— 14,000百萬圓

☐ 不足財源對策

○ 起債借入 ————— 12,000百萬圓

(土地管理費 地域均衡開發資金 <不透明> 5,000, 地域開發基金 7,000)

○ 一般會計支援 ————— 2,000 百萬圓

□ 自主財政對策 推進

○ 上水道 使用料 引上

＜ 使用料 引上 凍結로 인한 缺陷額 現況 ＞	
○ 總 缺 陷 額	30,297 百萬원
・ '86 ~ '90 缺 陷 額	26,964 "
・ '91 引上後 缺陷豫想額	3,333 "

○ 使用料 引上의 當爲性

- ・ '91 使用料 現實化後에도 赤字額 累積 —— m³當 43.61원 赤字
- ・ 맑은물 供給에 따른 生産費 投資增加
- ・ 人口增加에 따른 施設擴張 事業費를 起債로 充當 負債 加重
- ・ 管内 給水人口 64%以上이 上水道使用料 引上을 해서라도 맑은물 供給을 渴望하고 있음.

※ 大田消費者團體의 「水質汚染에 對한 消費者意識 調査」 --- 66.1%
- 大田每日新聞 '91. 4. 23 日字

※ 自體說問調査 結果 -- 64.0 % ('91.9.30 : 不特定 需用家 1,000名)

○ 使用料 引上額 — 生産原價 (261.80원) 水準으로 引上

- ・ 引上要人 : 19.9 %

○ 經營改善으로 歲入増大

- 漏水防止事業의 積極推進 -- 2,000千m³/年 (防止效果 : 524百萬圓)
- 公共用水 使用量 換價徵收 -- 12 百萬圓 (消防用水, 綠地撤收用水)
- 高感度 計量器 交替事業 擴大推進
 - ・ 交替對象 : 月500m³以上 使用 需用家 901 栓
 - ・ '92 交替計劃 : 601 栓('91 : 300栓 交替)
 - ・ 使用量 感知能力 増大 : 20% (月 平均 1,103千m³)
 - ・ 使用料 收入増大 展望 : 1,730 百萬圓
- 盜水防止事業 積極 推進
- 執行豫算의 節減
 - ・ 總 歲出額 54,570百萬圓의 7%(5% + 2%)節減 ——— 3,820 百萬圓

앞 으 로 의 課 題

앞으로의 課題

—— 組織員・물 信賴確保 ——

☐ 需用家에 對한 最善의 奉仕

- ┌ 迅速한 奉仕體制 構築
- ├ 生産과 供給 施設의 改善
- └ 弘報 技法의 開發

☐ 經營 管理의 改善

- ┌ 生産費 節減
- ├ 上水道 使用料의 現實化
- └ 採算性 事業의 發展

☐ 公職紀綱 確立

- ┌ 上水道 從事 公務員의 信賴 確保
- ├ 全 從事員의 必須 要員化
- └ 全 從事員의 弘報 要員化

—— 模範 傳統 基盤 構築 ——